

## CONTENTS

会社概要	1
トップコミットメント	3
NIPPOの事業	5
マネジメント体制	
コーポレート・ガバナンス	7
CSRマネジメント	8
コンプライアンスと品質マネジメントシステム	9
安全管理	10
環境報告	
環境マネジメントシステム	11
舗装事業における環境保全活動	13
舗装事業での環境技術の開発	15
舗装事業での環境・安全に配慮した製品	16
周辺事業における環境・安全配慮	17
社会性報告	
お客様の信頼を得るために	19
従業員とのかかわり	20
社会とのコミュニケーション	21
第三者意見	22

## 編集方針

このCSRレポートでは、一般の方にとってなじみの薄い建設業を事業活動の中心とする株式会社NIPPOコーポレーションの経済、環境および社会とのかかわりについて、多くの方々に知っていただくことを編集の基本方針としています。

このレポートをツールとして当社とかわる多くの方々のコミュニケーションをさらに充実させていきたいと思っております。

## 対象範囲と対象期間

対象範囲：株式会社NIPPOコーポレーションの本社、支店11カ所、支店・営業所55カ所、現業事業所408カ所（海外を除く）。

対象期間：2006年度（2006年4月1日から2007年3月31日）。一部には、時期を明示した上で2006年度以前の情報と2007年9月までの最新情報を掲載しています。

## 会社概要 （2007年3月31日現在）

社名：株式会社 NIPPOコーポレーション

英文社名：NIPPO CORPORATION

設立：1934年（昭和9年）2月

本社所在地：〒104-8380  
東京都中央区京橋1-19-11  
TEL 03-3563-6751（代表）

代表者：代表取締役社長 林田 紀久男

資本金：15,324百万円

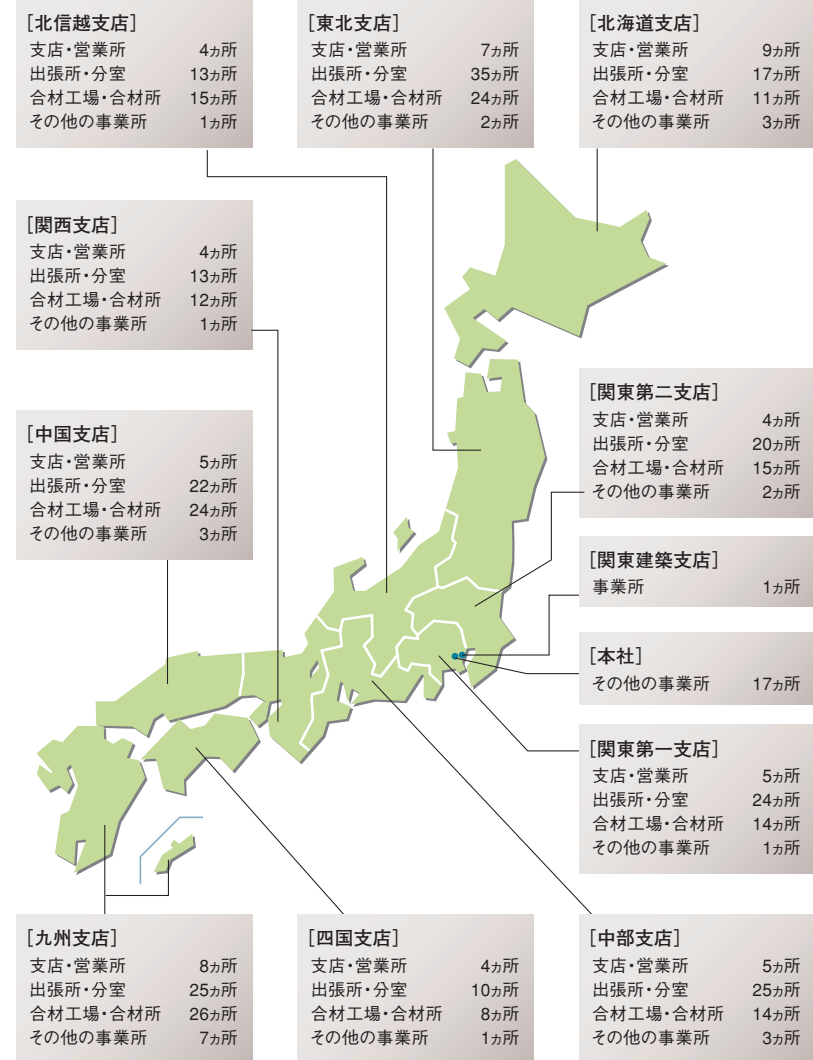
事業内容：建設事業、  
アスファルト合材等の製造・販売事業、  
開発事業およびその他の事業

従業員数：2,409名（男性2,300名、女性109名）

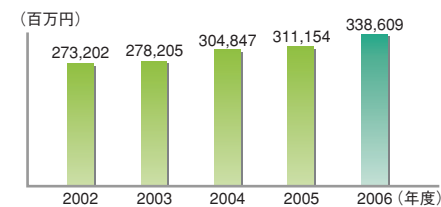
ホームページ：<http://www.nippo-c.co.jp/>

株式会社NIPPOコーポレーションはアスファルト舗装工事を中心とする舗装・土木工事およびアスファルト舗装の材料であるアスファルト合材の製造・販売を中核事業としています。舗装・土木工事の対象は、庭先舗装、一般道路、高速道路、レーシングコース、空港から、市民の憩いの場となる公園、テニスコート、サッカーグラウンドまで広範囲に及びます。また、製造したアスファルト合材は当社の工事で使用するだけでなく、ほかの舗装工事業者にも販売しています。このほか、マンション等の建築工事、戸建てをはじめとする宅地や都市型マンションの開発事業、石油精製などのプラントエンジニアリング事業および土壌浄化事業等の周辺事業を取り込み、事業基盤を強化しています。

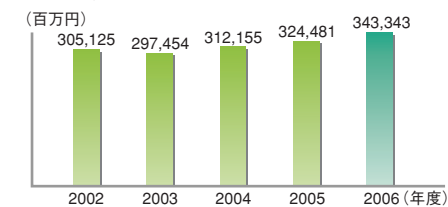
## 事業所一覧 （2007年5月31日現在）



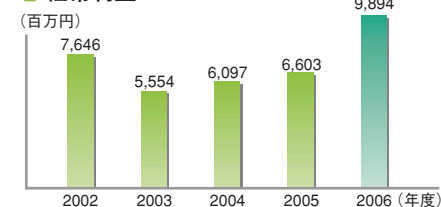
## 売上高



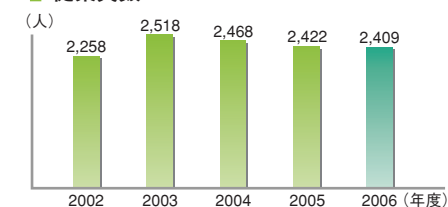
## 総資産額



## 経常利益



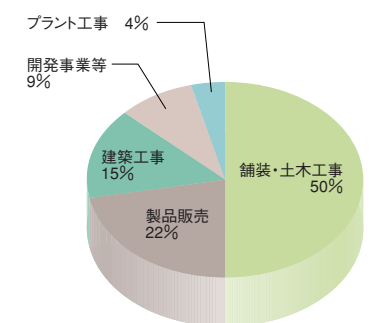
## 従業員数



## CSR活動への取り組み

- 1934 日本石油(株)道路部と浅野物産(株)道路部の合同により「日本舗道株式会社」を設立
- 1993 企業行動倫理委員会設置
- 1994 環境保全活動推進のための諮問機関として環境管理委員会を設置  
企業理念・行動指針制定
- 1995 シンボルマーク改訂
- 1998 環境に関する基本理念と行動指針を表した環境保全活動指針を制定
- 2003 日本舗道株式会社が、新日石エンジニアリング株式会社を分割統合して「株式会社NIPPOコーポレーション」に商号変更  
法令遵守(コンプライアンス)体制構築
- 2004 環境報告書創刊
- 2005 CSR体制構築
- 2006 企業理念・行動指針改訂
- 2007 CSRレポート創刊

## 事業分野別売上高(2006年度)



## 様々な業務改革を通してCSRを本格化 日々の実践を推進していきます



### 企業理念

わたしたちは  
確かなものづくりを通して  
豊かな社会の実現に貢献します

### 行動指針

- ・ 信頼を築く
- ・ 技を磨き、伝える
- ・ 夢をいだき、挑戦する

### NIPPOのCSRとは

私は、社長就任時に、企業価値の向上をはかるため「CSRの推進」を重要な取り組みとして掲げました。

NIPPOのCSRの基本については、次のように考えています。法令遵守や品質保証、安全管理、環境保全等、これらを踏まえた「確かなものづくり」と、そこから得られる「適正な利益」の2つを両立させることです。

この2つを両立させるという強い信念を持って事業を行う会社を目指すことが、従業員並びに家族が誇りに思い、社会から信頼され、存続していくことができる。これがNIPPOの目指すCSRだと考えています。

しかし、こうした信念に基づいてCSRの推進に取り組んでいる最中の2006年10月に、これを揺るがす、過去の粗雑工事の事実が明らかになり、皆様に多大なご迷惑をおかけしたことを、ここに改めて深くお詫び申し上げます。当社のCSRは、この事態を転機として、不祥事が発覚した直後に業務改革委員会を立ち上げ、コンプライアンスを念頭に置いて業務改革に早急に取り組むことから本格化させました。

### 自社基盤を固めながら グループ全体で進めます

具体的に実施したことは3つあります。組織の見直し、新しい形の研修の導入、内部統制の強化です。

工事を担当する出張所の組織を見直し、出張所を統括する「地区総合事務所」を設置し、総務部門の責任者を配置しました。これは総務や財務面でのチェック機能の強化とコミュニケーションを活性化させて現場の人間がものづくりにより集中できるようにするためのものです。

また、2007年4月から、各出張所長、全社の部長を含む営業担当者、総務担当者など職責ごとに本社での集合研修を実施しています。特に建設業法、廃掃法、独禁法等の法令遵守が大きなテーマです。

内部統制の強化として、今回の不祥事の発生を契機に2006年11月に工事施工監査部を設置し、2007年4月からは、出張所長などを経験したことがあるベテラン社員7人を配属しました。従来からあった社内検査の仕組みを変え、新たな検査体制で、工事が適切に行われているかどうかを検査、指導

しています。また、2007年4月に内部統制部を新設し、会社法および金融商品取引法にかかわる内部統制システムの構築作業を進めており、2008年4月から本格的に稼働する予定です。

CSRの推進体制としては、当社の役員で構成したCSR委員会が中心になって行ってきました。そのCSR委員会の中にはグループ全体のCSR活動を推進するNIPPOグループCSR委員会も含まれています。また、当社役員と主要グループ会社7社の社長が参加するNIPPOグループ社長会を定期的に開催し、各社のCSRに関する情報の共有化をはかり、課題の解決に向けた話し合いなどを行っています。

### シンプルな理念を掲げました これを必ず守っていきます

経営姿勢を示した企業理念は、シンプルな表現にして、従業員が暗唱できるようにわかりやすくしました。

冒頭で申し上げた、法令遵守、品質保証、安全管理、環境保全を含んだ「確かなものづくり」を通して利益を上げる。そして社会貢献、人権尊重、情報管理を推進するといふものです。

これほど簡単な表現はありません。当り前のことばかりですが、当り前のことをきちんとやらないと、いくら利益を上げても会社は成り行かなくなります。

会社がこの2つを例外なく実行すると決めれば、必ず社員は真剣に考えてくれるようになります。そうすると、いい仕事をし、安全も確保され、知恵を出して正しいことを考えてくれます。正しいことをやることは利益にも貢献すると信じています。

CSRの推進においては、まだまだ足りない点があります。企業理念や行動指針が実行され、社員だけでなく現場作業に従事する協力会社の人も含めて実践することが最も重要と考えています。利益と公益の両立という理念は簡単に具体化できるものではなく、時間がかかりますが、現場で働く協力会社の人にもわかってもらえるように、これからも繰り返し、繰り返し説いていきます。

株式会社 NIPPOコーポレーション  
代表取締役社長

林田 勉 男

# NIPPOの事業

舗装・土木事業とアスファルト合材の製造・販売事業を中心に、建築・エネルギー・開発事業まで幅広く展開しています。

## ■ NIPPOの中核事業

### 舗装・土木事業

1934年の創業以来、人や環境への配慮といった視点から、独自の技術を生かした道路舗装・土木事業を行ってきました。同事業が売上高に占める割合は約50%にのぼります。近年では、交通量の増加や車両の大型化が進み、道路の維持・修繕の重要性は一層高まっています。これに伴い当社の事業も、「道づくり」を基盤に、空港等市民生活とかかわりあう様々な分野に広がっています。環境改善に対する社会の期待が高まる中、今後も生活者重視の視点に立ち、豊かな社会の実現に貢献していきます。



国道41号 泉工事



関西国際空港 B滑走路

### 製品製造・販売事業

全国163カ所にアスファルト合材の供給基地を持ち、資源の有効活用のため、舗装廃材のリサイクルシステムを構築しています。全国で年間561万トンのアスファルト舗装廃材を受け入れ、全量を自社工場内で再資源化、再利用するシステムを構築し、「循環」を完結しています。また、燃料のガス化や資材輸送の海上輸送への切り替えなど、新たな取り組みも始め、地域社会や環境への配慮に引き続き力を入れています。



横浜合材工場



資材の海上輸送

## ■ 周辺事業

### 建築事業

1983年から本格的に建築事業に取り組み、お客様からは組織力を生かした総合事業に大きな信頼を寄せていただいています。お客様のご要望や現場の状況に応じた綿密なコンセプトづくりから施工、メンテナンスまで、あらゆるニーズに満足していただける快適な空間を提供し続けます。



株式会社ランテック福岡支店

### エネルギー事業

新日本石油グループのエンジニアリング部門として、石油精製・石油化学・石油ガス装置や配管・タンクなどの付帯設備の設計、建設、監理を担い、2006年度には、売上高132億5600万円を計上しました。豊富なノウハウを生かし、環境負荷の少ないプラント設備の設計・建設や家庭用燃料電池の設置・メンテナンスなどあらゆる可能性に積極的にチャレンジしています。



八戸LNG基地建設工事タンク屋根上架

### 土壌浄化事業

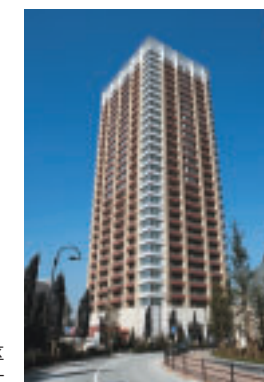
近年、重金属や揮発性有機化合物、油などによる土壌汚染が見つかる例が増加しています。そこで、独自の土壌・地下水浄化システムできれいな大地を取り戻そうと、2001年に事業を開始しました。2006年度には調査業務を含め、323件を手がけました。また、新型の加熱乾燥プラント2号機を完成させ、供用を開始しました。地球の浄化能力を超えた汚染をなくし、未来の子どもたちに美しい地球を残すため、常に次世代技術の開発に取り組んでいます。



加熱乾燥プラント2号機

### 開発（住宅）事業

舗装・土木、建築事業で培ったネットワークとノウハウを生かし、デベロッパーとして安心、快適な街づくりに取り組んでいます。宅地建物分譲事業、マンション分譲事業「Le Cinq」シリーズ、オリジナル住宅事業「GRATIEA」シリーズ、賃貸事業「ABAS」シリーズなどを展開し、中核都市や都心部で安心・快適に過ごせる商品を今後も積極的に提供していきます。



大崎駅東口第3地区  
ル・サンク大崎シティータワー